

近代ヨーロッパにおける偽善と偽悪の問題 —ルソーからアール・ヌーヴォーまで—

- 講演者 **鷺見洋一**先生（慶応義塾大学名誉教授）

専門：ディドロと『百科全書』を中心とする18世紀フランス文学と思想

フランス大革命までのヨーロッパ古典文化は「偽善」の文化であり、自分を美しく立派に見せかけることが至上の義務でした。ルソーから革命を経て19世紀に入ると、産業革命後のブルジョワ化した社会への反発や反抗から、自分を実際以上に悪人に見せかけて、実際にもそう振る舞う傾向が増大します。その「偽悪者」の系譜はさらに、ボードレールから世紀末の「アール・ヌーヴォー」と呼ばれる文化現象まで辿ることができます。

- 日時 2016年1月30日(土) 16:00 ~18:00

- 場所 名古屋市立大学滝子キャンパス 1号館1F会議室

連絡先：寺田元一（TEL 052-872-5835）